Twinkle 東京女子医科大学学術リポジトリ
Tokyo Women's Medical University - Information & Knowledge Database
https://twinkle.repo.nii.ac.jp

Prognostic significance of PRAME expression based on immunohistochemistry for diffuse large B-cell lymphoma patients treated with R-CHOP therapy

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 三橋, 健次郎 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/31330

様式（6）

学　位　審　査

学　位　番　号	乙 第 2868 号	氏　　名	三橋　健次郎
審　査　委　員　会	主　査　教　授	田中　淳司	

論文審査の要旨（400 字以内）

びまん性大細胞型B細胞リンパ腫（DLBCL）は不均一な疾患集団であり、生物学的特性に基づく層別化が必要である。本研究では癌抗原蛋白である PRAME の DLBCL における発現を免疫組織化学法（IHC）にて確認し、臨床所見との関連性を検証した。その結果、R-CHOP 療法を受けた DLBCL において PRAME 高発現群は、低発現群と比較し有意に無増悪生存が不良であることが明らかにされた。また、定量的 PCR 法を用いた解析により、PRAME 遺伝子の発現量と IHC による PRAME 蛋白の発現は有意に相関することも確認された。以上から、PRAME 高発現 DLBCL は標準的治療である R-CHOP 療法の有効性が低い可能性が示された。
本研究は PRAME が実臨床において応用可能なバイオマーカーとなる可能性を示すとともに、PRAME を標的とした新規治療薬開発の可能性を見出した点において臨床的意義があるものと考えられた。

（398文字）

本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に学務部医学部大学院課へご提出下さい。（本学学会雑誌に公表）[学校教育法学位規則第 8 条]